

東京湾海堡ファンクラブ

とうきょうわんかいほうふぁんくらぶ

代表者	会長 小坂一夫
所在地	〒110-0015 東京都台東区東上野 2-7-6 東上野 T.I ビル (株) 地域開発研究所内
設立年月日	2002年(平成14年)9月1日
URL	http://kaihoufc.com/

【設立趣旨】

海堡とは、人工の島に造られた砲台です。明治から大正年間に、富津岬と観音崎を結ぶ東京湾口に三つ建設されました。海堡が造られた目的は、外国軍艦の攻撃から東京を護ることでした。

私たちは、東京湾海堡を核にして人の輪をつくり、海堡の歴史の検証、遺跡の整備と愛護、有効な活用の促進に努めるとともに、人々の親睦と交流を拡大し、東京湾口のランドマークとしての理解を深め、東京湾の歴史と未来をつなぐことを目指しています。

会員は、東京湾第一海堡の地元である富津市、東京湾第二海堡の地元である横須賀市の市民を中心に、首都圏の市民で構成されています。



東京湾第一海堡 (2000年2月撮影)
明治14年(1878年)に着工し、明治23年(1890年)に竣工した。面積は23,000㎡(東京ドームのグラウンドの1.8倍)、水深5mのところ建設された。



東京湾第二海堡 (2000年2月撮影)
明治22年(1889年)に着工し、25年の歳月をかけ、大正3年(1914年)に竣工した。面積は41,000㎡(東京ドームのグラウンドの3.2倍)、水深10mのところ建設された。

【沿革】

近代日本最初に造られた人工島であった海堡は、明治39年(1906)にアメリカから技術提供を求められたほど、注目された技術でした。巨大な経費と時間を要した砲台でしたが、海堡の大砲から実戦として、弾が発射されたことはありませんでした。

【活動目的】

私たちは、設立から7年を経て、東京湾海堡の歴史的意義を検証するなかで、品川台場を含む東京湾砲台群の歴史的な重要性を再認識することができました。現在は、東京湾砲台群の歴史的な検証、整備・保護、さらに、世界遺産登録を目指して取り組んでいます。

【活動内容】

東京湾海堡は、過去においては、大艦巨砲時代の首都防衛の要塞でしたが、現代を迎えてからは東京湾口のランドマークになりました。未来における東京湾海堡は、遺跡であるとともに、国土防衛と海民文化の情報集積や発信の砦となるよう、東京湾海堡への理解と愛護を深める活動を行っています。

- ①研究会・見学会・シンポジウムの開催。
- ②会報の発行(年4回)。
- ③東京湾海堡に関する資料・情報の収集。
- ④地方自治体や国土交通省などの関係団体へ東京湾海堡・東京湾砲台群の保存・活用に対する働きかけ。

⑤海堡の存在と意義をPRする活動。
【活動上の課題と今後の展望】

活動上の大きな課題としては、保護・活用の対象として、東京湾第一海堡と東京湾第二海堡が上陸禁止であることがあげられます。第一海堡は、海堡内に不発弾が存在する可能性があるため上陸できません。また、第二海堡は、護岸が崩壊しているため、上陸し見学するのは危険であるとされているため、上陸の許可がありません。

このような状態では、いつまでたっても海堡は一般国民に対し、知る機会を得ることはできません。それを解決するには、東京湾海堡を活用する管理者が決まることが不可欠になります。私たちは、千葉県に対して、東京湾海堡の管理者

になっていただけるよう、働きかけを行っています。

一方、東京湾海堡は、かつて軍事施設であったため、市民の方々のなかには、戦争に関する施設に対してアレルギーがあり、私たちの活動が戦争に対する美化ではないかと誤解される可能性があります。東京湾砲台群の正しい歴史的な意義を説明し、広く一般の方々に理解していただくことが大きな課題であると認識しています。



千葉県本知事に陳情(2006年8月16日)
陳情内容 (1)海堡の案内板を富津岬先端に設置して欲しい。
(2)第一海堡と第二海堡の管理を千葉県が行っていただきたい。
(3)第一海堡と第二海堡の護岸修復と一般公開をお願いしたい。



シンポジウム風景(2008年8月30日 東京ビッグサイト101会議室)
「お台場と東京湾海堡」をテーマに、講演会とパネルディスカッションを行った。



見学会(2008年10月18日 館山見学会)
東京湾砲台群にゆかりのある場所の見学会を実施している。